

将来世代
応援
企業賞

国立大学法人 信州大学 (長野県)



- 代表者 学長 濱田 州博
- 所在地 長野県松本市旭3-1-1
- 業種 教育・学習支援業
- 事業内容 教育、研究、診療等
- 設立年 昭和24年(1949年)
- 従業員数 4,142人
(男性2,145人、女性1,997人)
- URL <http://www.shinshu-u.ac.jp>

企業の取組状況等

背景

本学における男女共同参画の推進に向けて、平成22年度に教職員、大学院生を対象にアンケートを行い、女性研究者の7割が仕事と育児・会議の両立が難しいとの回答があった。この状況を打破するために、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に応募を行った結果、平成23年度から平成25年度までの3年間のプロジェクトが採択され、女性教員の比率向上、研究環境の改善が図られた。この取組は文部科学省の事後評価で「S」(所期の計画を越えた取組が行われている)を得ている。また、平成28年4月から、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が施行されるなど、女性の活躍が重要となっている中で、本学もより一層女性が活躍できる職場づくりを推進したい。

取組

- ・平成16年4月1日から適用された育児休業等に関する規程で、育児休業は子の3歳の誕生日の前日まで取得することができることとした。また、短時間勤務制度の取得可能期間は子の3歳の誕生日の前日までだが、始業・終業時間のうち1日2時間以内で短縮可能で、所定の勤務時間を勤務したものとみなし減給はしておらず、経済的負担の軽減に寄与している。
- ・昭和40年に松本キャンパス内に開園した「おひさま保育園」を、平成25年11月に規模を拡充して建替え、定員もそれまでの1.5倍の90人とし、多くの教職員が利用できるような環境を整えた。
- ・平成23年12月から、研究者が出産・育児等のライフイベントと研究の両立ができるよう支援するため、月当たり30時間を限度として大学院生等を研究補助者として配置する制度を実施している。
- ・小学校3年生までの子を養育する職員を対象に、ベビーシッターサービスを利用した際の料金の一部を負担する制度を平成25年4月から導入している。

成果

- ・育児休業の取得者は、平成25、26年度の2年間で男性2名、女性105名が取得し、女性の育児休業取得率は92.1%となっている。また、短時間勤務は平成25、26年度の2年間で男性2名、女性34名が利用した。
- ・おひさま保育園について、平成26年度、60名の職員が利用し、69名の乳幼児を保育した。
- ・研究補助者制度について、平成25、26年度の2年間で男性延べ10名、女性延べ50名が利用した。
- ・ベビーシッターサービスについて、平成25、26年度の2年間で4名が利用した。



ひとこと

<ボス>

大学は職場であると同時に多くの学生が学ぶ教育の場でもあります。ワーク・ライフ・バランスに配慮した働きやすい職場環境の確保を継続して推進していくとともに、学生の「男女共同参画社会」への意識を高めたいと考えております。

<従業員>

平成28年4月から「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が施行されるなど、国を挙げて女性の活躍が求められています。全ての教職員が働きやすい職場となるよう、本学の男女共同参画の取り組みに期待しています。